

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」(梅ユニット)		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401277-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人に対しても、物に対しても、「優しさ」を感じていただき、落ちついた穏やかな環境を整える手法として「指先から優しく」という言葉を使って指導、実施しています。その手法とは関わる全ての動作には手を添えて関わります。その手(両手)の指先最後まで触れ丁寧に関わることで「優しさ」を感じ穏やかな環境づくりに繋がっていると力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は鉄筋3階建てのビル内にあり、1階が内科クリニック、2・3階が2ユニットのグループホームとなっている。地下鉄やバス停に近く、近隣にはスーパーや商店が建ち並び利便性に優れている。医療法人を母体とし、健康管理などで利用者や家族の厚い信頼を得ている。看取りを実施しており、豊富な経験を持つ看護師の管理者と職員の手厚い介護で、医療連携を取りながら家族の希望に添えるように取り組んでいる。職員は内外の研修を受け、日々研鑽し質の高いサービスを提供している。家族とは「家族会」の開催や「便り」の送付で交流に努め、親しく良好な関係を築いている。地域とは町内会行事への参加や事業所主催の夏祭りで交流し、講演会などを通して事業所の持てる知識や経験を地域社会に還元している。地域の人々と共に一人ひとりが安心して笑顔で生活できるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの始まる前スタッフ全員で唱和している。唱和しながら理念の内容を再確認し実践につなげている。	「心からの笑顔・安心できる環境・個性の尊重・地域との共同」を理念として掲示し、パンフレットにも明記している。申し送り時には全員で唱和して確認し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したりホームの行事に参加していただいたり、機会は少ないが交流を持っている。	町内会行事に協力し、事業所主催の夏祭りには地域の人々が多数参加している。運営母体である併設クリニックが地域医療に長年貢献してきた経緯もあり、地域に親しまれ信頼されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームでは高齢者認知症の方の看取りを積極的に行っている。その経験を活かして地域の葬儀社の学習会や講演会で経験談を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施しホーム内の様子や取組み等を報告し意見を活かしている。	地域包括支援センター職員、町内会役員、家族、医師が参加し定例に会議を開催している。行事、運営、災害対策などについて話し合い、討議した内容はサービスの向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	理解できない内容には市役所への相談を最優先している。	市や区の担当者とは連絡を取り合い、日頃から協力関係を築いている。管理者はグループホーム連絡協議会や研修会に出席し情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上の理由から夜間のみに行っている。	マニュアルを整備している。職員は内外の研修会に出席し、拘束についての意識を共有し、身体拘束のないケアを全員で実施している。日中玄関は施錠せず自由な雰囲気大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の知識を豊富にするため毎年スタッフには研修に参加させ研鑽している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できるよう支援しているが実際に活用する対象者が最近いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明も含め十分説明しているが、説明内容が多いので一度に理解していただくのは困難と思われ、必要時にその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を実施してホーム内報告を行っているが、家族からの意見・要望は中々でない現状がある。	毎月発行の「西まち便り」の家族への送付や年4回開催の「家族会」で、意見や要望の把握に努めている。家族の訪問頻度は高く、家族の意見は運営に反映させている。外部の苦情申し立て機関も明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回学習会を設けスタッフの意見等を聞く機会を設けている。	管理者は学習会などの機会にて、職員の意見を聞き、希望や要望は代表者に伝えている。代表者も職員の状況を把握し、福利厚生にも配慮し、職員の意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与関係は向上心が持てるような支給は出来ないが休暇等が取れる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には各職員に不足している知識や見合った研修に参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同区内の同業所との交流会で、勉強会、研修会には参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホーム入居希望される方には出来ればご本人も一緒に見学するように勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホーム入居希望される方が見学にいらっ しゃった時には現状に耳を傾け相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に耳を傾けている中で今必要な事等助言 を含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分で行っていただいたり、出来る人には食器拭きや洗濯物たたみ等出来ることを一緒に行っていたりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際には本人に関する情報を伝えている。また、月まとめ記録を渡し生活状況がわかる様伝え家族の希望も気楽に話せるような関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に制限はせず、自由に行き来してもらっているが、なじみの場所への外出等は家族にお任せしている現状である。	生活歴を把握し、大切にしてきた人達との関係が継続するように支援している。馴染みの商店へ出かけたり、帰省できるように協力し、家族や友人の来訪時には共にゆっくり寛げるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士合う合わないがあるので職員が間に入り一緒にレクレーションを行ったりしている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大きな行事にはお誘いの連絡をしたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活なので、食事や入浴、消灯時間等はホームの生活に合わせてもらっている現状だが、それ以外では本人の要望を聞いている。	日頃から本人の言葉や表情に注意し、意向の把握に努めている。家族からも情報を得て、できるだけ本人の希望に添えるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、把握しているほか家族が訪れた際に情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	密なる申し送りを通して継続的に関われるよう現状の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの意見や本人含めての話し合いがなかなか実践できないが家族の意見を反映し作成している。	介護計画は本人や家族の意見や要望を聞き、計画作成者と共に職員全員がモニタリングに参加し作成している。状況に変化が生じた時は関係者の意見も聞き、現状に即して随時検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護計画に沿った内容を記録するように指導している。中々実践に繋がらない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化というよりも既存のサービスで出切ることを前提に考えている現状である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問美容を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階にクリニックが併設されているので、クリニック開院時はいつでも対応してくれる。	併設されている内科クリニックへの通院や、月2回の往診で健康管理を行っている。他科受診の場合は、家族と協力し適切な支援を行っている。緊急時を含めていつでも医師と連絡可能な体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で24時間対応し必要に応じて受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時医療関係者とはサマリーを交換し情報交換している。又退院にむけて受け入れ条件等を伝えられる場を設けていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には「重度化した場合の対応に係る指針」の説明をし、更に重度化が進んだ段階で「看取り介護についての同意書」を説明し理解を求め取り組んでいる。	入居時に「重度化に関する指針」について説明し、更に重度化した場合は、「看取り介護についての同意書」を交わし、医師、看護師、職員と連携をとりながら取り組んでいる。看取りは家族からの希望に添い実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を設け身につくように指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施。寝たきりの方でも避難できるように訓練している。又緊急連絡網には町内会長にも連絡が入るように組んでいる。	避難訓練は消防署指導の下に、夜間も想定し年2回実施している。3ヶ月に1度、チェック表を活用して防災点検を行っている。緊急連絡網には町内会長もリストに加えるなど、地域の協力も得ている。防災備蓄品も確保している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対して敬意を持って対応するように厳しく指導している。	職員は言動に配慮し、利用者一人ひとりの人格を尊重している。優しい言葉かけと穏やかな対応は利用者の安心感に繋がっている。個人情報記載の書類はカーテンを取りつけた棚に保管し、慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず相手の話しを聞くことを実践している。次に本人が安心して自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	どのように生活したらよいか分からない方がほとんどなので、ホームの生活のペースに合わせてもらいつつ希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人には自分で服を選んでいただいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合った形態の工夫をしている。また月1回お楽しみ食と称して豪華な食事を提供している。	利用者は、持てる力に応じて食後の後片付けなどに参加している。職員は食器や盛り付けに配慮し、献立に変化をもたせ、誕生会には手作りケーキで祝うなど、食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一人ひとりチェックし、個人に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	積極的に自立支援は行っていないが、おむつを使用しているも立ち上がりができる方はトイレ誘導している。	動作や表情から察知し、それとなくトイレに誘導している。身体状況に配慮しながら、できるだけトイレでの自立排泄ができるように支援している。安全に配慮し、時には二人介助で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状況に合わせて早朝冷たい牛乳やおやつにヨーグルトやホーム手作りのクッキー等工夫しているが、飲食物の工夫だけでは限界がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴予定は立てているが、拒否がある場合は予定をずらしたり柔軟に対応している	入浴は週2回以上を基本としているが、体調やタイミングを考慮し希望に合わせている。シャワー浴や清拭も取り入れ、安全と清潔保持に配慮しながら楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からのお昼寝は極力避けていただいている。または短時間で済ませていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された時点で内容の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみごとで生活に張りが出るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩にでかけている。また、外出行事として、年に何度か車をレンタルし出かけている。	花見や紅葉見物に出かけている。個々の希望に添っての外出支援もしており、体調に配慮しながら、車椅子の方もできるだけ戸外に出かけられるようにしている。外出行事には家族も共に参加できるように案内している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方がほとんどで預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば叶えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着かない刺激となるような音・スタッフの動き等には十分気を配り、落ち着いて安心できる環境づくりを日ごろから意識している。	廊下や玄関には季節感のある手作りの作品や絵画を飾り、リビングにはソファを置きゆっくり寛げるよう配慮している。採光、温度、湿度も適切に管理され清潔である。騒音もなく居心地よく過ごせるよう環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はそれほど広くないが、食卓椅子、ソファを配置し、思い思いの場所で過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居心地良く使いやすいように家族と相談しながら家具等配置している。	居室には馴染みの家具や大切な仏壇、趣味の物を飾り、自分らしく安心して過ごせるように工夫している。程よく整頓され掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷ってしまう利用者に対して、場所の表示をするなど、安心して自立しながら生活できるように工夫している。		